

## 函南町地域公共交通計画（案）パブリック・コメント実施結果

実施期間：令和6年12月5日（木）午前8時30分から令和7年1月6日（月）午後5時15分まで

意見提出者及び意見の総数：6人 47件

御意見ありがとうございます。意見内容については、「パブリック・コメントに提出された意見の取扱いについて」に基づいて掲載しています。

意見内容については、原文のまま御提出いただいた順に掲載しています。（※No.40のみ添付資料等があるため一部要約しています。）

件 (No.)	意見の 対象部分 (ページ)	意見内容	町の考え方	意見に対する措置
1	改定について P1	形成計画における取組状況の評価が甘いのではないかと？ 路線バスのルート再編、ダイヤの見直しでは、評価○になっているが大場函南線は路線バスからデマンドタクシーに切り替えて利用人数が17分の1になっている。（町議会 一般質問より）こんなに利用人数の減少で○って地域住民怒るのでは、ないか？	「函南町地域公共交通計画の改定について」は、計画案改定の経緯等を示した資料であり、パブリック・コメントの対象ではありません。	変更なし
2	改定について P1	取組状況の評価で、運行情報、乗り換え情報等の提供が○になっている。数ヶ月前に大雨で道路冠水したことがあったが拠点循環コミュニティバスの運行停止情報は、流れてこなかった。西部コミュニティセンターからファミマの間の冠水状況は、後日動画で確認した、午後2時の時点で普通自動車の運転も危険な状況それなのに運行情報は、流れていない。○ではないと思う。	「函南町地域公共交通計画の改定について」は、計画案改定の経緯等を示した資料であり、パブリック・コメントの対象ではありません。	変更なし
3	改定について P1	取組状況 イベント等による公共交通の利用促進 これについては12月に小学生バス無料の日がある。函南町以外の市町は、ホームページに掲載しているのに函南町はない。○であるとは思えない。	「函南町地域公共交通計画の改定について」は、計画案改定の経緯等を示した資料であり、パブリック・コメントの対象ではありません。	変更なし
4	7, 20, 21, 43	白紙の部分がある。写真やイラスト、コラムなどを会議で議論してから、町民に意見を聴いてほしかった。	ご指摘のページをはじめ、最終的な公表に向けた計画書のとりまとめにおいて、調整していきます。	変更なし
5	全体	福祉課担当分の元気継続大作戦と地域公共交通計画のページがない。同じ枠組の北海道池田町は、計画に盛り込んでいて、函南町はない、不自然すぎる。	福祉施策と連携した公共交通施策については、基本方針Ⅳ 施策2 利用者負担軽減による支線交通の実現で記載しております。また、「元気！継続大作戦」については、移動手段の手当が福祉的な効果が出るのかの検証であるため、次期計画に記載は考えておりません。	変更なし
6	全体	伊豆ファン倶楽部とタクシーについて 現在タクシー利用すると伊豆ファン倶楽部のポイントがもらえると思う、しかし、大場函南線のデマンドタクシーや循環コミュニティバスの利用で、ポイントがもらえるかは、不明。情報発信も情報提供も各種連携も不足している。コミュニティバスは、タクシー会社のため適用されるのか？	ご指摘の大場函南デマンドタクシー及び拠点循環コミュニティバスは、バス路線の代替交通として運行しており、町からの委託により、タクシー事業者が運行主体となっています。本来のタクシー事業者のサービスとは異なるものとなっています。	変更なし

件 (No.)	意見の 対象部分 (ページ)	意見内容	町の考え方	意見に対する措置
7	29	1-1-①路線バス等のルート再編、この路線バス等とは、何をさすのか？現在、函南町に路線バスは1路線、循環コミュニティバスなどに変えたほうがいい。等の内容が不明確。	既存の路線バスのほか、現在、実証運行中の拠点循環コミュニティバス、大場函南デマンドタクシー等を包含して表現しています。	変更なし
8	29	1-1-②バス鉄道の連絡強化について。実際に視察したがコミュニティバス仁田駅接続の便、実際は電車に乗ることができないんですよと運転手が言っていた。チラシの鉄道接続と実態とは、ずれている	拠点循環コミュニティバスの運行により、これまで公共交通で結節していなかった伊豆箱根鉄道駿豆線伊豆仁田駅で乗り換えが可能となっています。 ダイヤについては、乗り換えが可能な接続となるように考慮した時刻表を設定しています。	変更なし
9		送迎バス、スクールバス有効活用とある。今後検討していくスケジュールが示されているが、具体的に有効活用の余地はあるのか、具体例を示してほしい	函南中学校バスにおける高校生同乗については、実証運行中であり、本格運用に向けて利用実態やニーズを把握していきます。 また、送迎バスにおいては、湯～トピアかなみ送迎バスの目的外利用を行っています。このほかの病院送迎バス等についても、運行主体と協議しながら、有効活用の可能性を探っていきます。	変更なし
10	30	デマンド型タクシーの維持拡大と記入されている。交通空白地域への拡大を検討とされているが、町議会一般質問では新幹線区は、交通空白地域と考えていないとの答弁。一方、新幹線区の町民は、空白地域として、デマンド型タクシーを含めて強く交通空白対策を要望している。拡大はするのに、新幹線区は空白地域ではないと認識していれば、永遠と解決しない。再度説明会実施が必要だと思う。	デマンド型乗合タクシーについては、大場函南デマンドタクシーの実証運行の利用状況も見ながら、交通空白地域への拡大を検討していきます。 拡大に当たっては、地域住民等のニーズが前提となりますので、地域からの要望等を発意として、地域の皆さんと検討を進めてまいります。	変更なし
11	31	拠点循環コミュニティバスの本格運行を 2027 年度としている。様々な状況を勘案すれば、妥当なスケジュールだと思う。ただし、本格運行への数値目標はハッキリと示してもらいたい。循環コミュニティバスがうまくいってる派とうまくいっていない派に分かれている。1便あたりの利用人数を見れば苦戦していて本格運行は厳しいと思う。ルートとダイヤも見直しをしないと、極端に少ないバス停があるのに本格運行は、してほしくない。	拠点循環コミュニティバスについては、ご指摘の通り、利用が少ないバス停があるとともに、利用者が少ない便があります。現在、ジャンボタクシー車両により、タクシー事業者への委託で実証運行を行っていることから、大場函南デマンドタクシー同様、デマンド化の運行を試行するなど、本格運行に向けた最適かつ効率的な運行方法の検討を行っていきます。	変更なし

件 (No.)	意見の 対象部分 (ページ)	意見内容	町の考え方	意見に対する措置
12	33	3-1-2 この項目に待合環境の整備を検討とある。役場バス停を降りて上を向いて歩くと汚れが目立つ。東玄関ロータリーの屋根が汚れている。環境整備をしっかりとしてほしい。2回目なので写真添付する。	役場の東玄関ロータリーの屋根については、計画（案）に対する意見ではございませんので、回答を控えさせていただきます。	変更なし
13	40	数値目標 拠点循環コミュニティバスの 2029 年度目標数値が低すぎる。もともと 1 便あたり 5 人目標だったはず。急に大幅な下方修正は不自然。しかも 2027 年度から本格運行予定で 2029 年に 2.5 とか 3 ならば、本格運行まで近い数値が 2023 年に実績数字が出ていることになる。函南町の考え方がぶれている、3 でいいんでしょうか？	拠点循環コミュニティバスの目標値については、バス車両からジャンボタクシー車両に変更するなど、運行形態・実績等を踏まえつつ設定しています。 評価指標の利用者数は、ご指摘の通り、1 便当たりを示しています。	評価指標「拠点循環コミュニティバスの日平均利用者数」を「拠点循環コミュニティバスの便平均利用者数、単位：人/便」に修正
14	40	拠点循環コミュニティバスの利用人数 これは 1 日あたりではなく 1 便あたりの間違いですか？		
15	全体	ライドシェアの記述について 本編にライドシェアの記述はないのか？国と静岡県は限定的なライドシェアは解禁し、積極的に推進見込み。函南町とライドシェア記述は必要	ライドシェアの記述は、「IV-1-② 交通空白地域への対応」に、自家用有償旅客運送（ライドシェア）として、記載しています。	変更なし
16	資料編	資料編には、自治区別地域公共交通導入調査がなかった。前は 38 ページにあった。この調査をしないと、計画策定できないくらい重要な調査をしていない理由は、なにか？ どの地区が、福祉系デマンドタクシー導入希望なのか？ 循環コミュニティバスは、どの地区で導入希望かを聞き取っていないのに、これから地域公共交通を検討って、おかしい。	地区別懇談会を通じ、地域のニーズを把握しながら、進めています。また、本計画（案）策定に当たって、町民アンケートや利用者アンケート、小学校区でのワークショップを開催し、利用ニーズを把握し検討を進めています。	変更なし
17	全体	全体を見ると 2027 年までに検討して、2027 年度に導入するものが多い、これって実質、計画策定の先送りに近いと思う。町民は数年間待たないといけない。財政的に厳しいのに循環コミュニティバスの本格運行、大場函南線のデマンドタクシー+他の地域にもデマンドタクシーを拡大見込みって、予算管理どうなっているのか、疑問。最近は、地域公共交通、年間予算 3500 万円程度で推移している。一方、大場函南線デマンドタクシーは、利用者が 17 分の 1、循環コミュニティバスは、バスからタクシーに。大量に予算あまりが発生している。2027 年度に動くのではなく、2025 年に検討、2026 年実施じゃないと、遅い。	拠点循環コミュニティバスについては、現在、ジャンボタクシー車両により、タクシー事業者への委託で実証運行を行っていることから、デマンド化の運行を試行するなど、本格運行に向けた最適かつ効率的な運行方法の検討を行っていきます。 デマンドタクシーの拡大については、大場函南デマンドタクシーの利用状況のほか、交通空白地での利用ニーズを把握し、実証運行を行いながら、導入を検討していきます。	変更なし

件 (No.)	意見の 対象部分 (ページ)	意見内容	町の考え方	意見に対する措置
18	36	副次的収入の検討。これは、地域公共交通の予算や収支の説明をしないと本来検討するのも、おかしい話。検討導入して例えば200万円副次的収入があっても、それをどう使うのか？導入しなくても持続的な地域公共交通が維持できるなら検討に値しない函南町って説明不足が多すぎると思う。	副次的収入の検討については、運賃収入以外の副次的な収入を得ることで、運行収支の適正化を図り、持続可能な公共交通を目指すものです。	変更なし
19	40	拠点循環コミュニティバスの利用者数の数値目標は、3.0となっているが、令和5年7月31日の会議資料1の1ページにダイヤとルートを変更したときの数値目標5.0となっている。いつの間に大幅な下方修正となっている。いったい、どうなっている？	No.13と同じ	-
20	36	広告等副次的収入の検討 そのように記入されていて、地域公共交通に関する予算説明は、全くされていない。約3500万円の予算が平均計上されているが、毎年大幅に予算が残っている状況が続いている。広告等副次的収入を積極的に検討する状況にない。もう少し議論してほしい。	No.18と同じ	-
21	36	環境に配慮した車両の導入について 現在、路線バスは、基本的に畑毛線のみ、その路線バスも多くの補助金を投入し、維持している状況。路線バス以外では、バスからタクシーに変化してきている。大場函南線のデマンドタクシー、拠点循環コミュニティバス、2つともタクシーである。そうなると、環境に配慮した車両の導入とは、バス？タクシー？何を想定しているのか？議論がされず環境にいいから記入するでは、計画の意味がない。タクシーについて調べると、電気自動車普及率は0.1%。私自身も電気自動車に乗りした経験がない。普及しない理由は、長距離移動するタクシーでは、電気自動車のデメリットである1回の充電で走行できる距離が短い、また街中に充電スポットが少ないことがある。さらにタクシーの電気自動車は、後部座席が狭い欠点があり、普及しない。FCVに関しては、水素の値段が半分にならないと導入を検討できないとの声が多数。結局、函南町の政策は、議論不足。5年間の計画では、導入できる環境にない。	環境に配慮した車両の導入について、交通事業者と協議を続けていき、路線バスやジャンボタクシー、小型タクシー等の車両更新時に積極的に促進していきたいと考えております。	変更なし

件 (No.)	意見の 対象部分 (ページ)	意見内容	町の考え方	意見に対する措置
22	2	<p>表中に、下記の事実を追記されたい。 2024年(令和6年)3月末 代替交通手段が検討中にも関わらず、令和6年1月18日の令和5年度第2回地域公共交通会議において「ダイヤランド線」の退出が決定され、同年3月末をもって路線が廃止された。</p>	<p>ご指摘の「ダイヤランド線」の廃止に関して、廃止について記載するとともに、乗合バスとして運行開始したことについて、「本町における地域公共交通のあゆみ」に追記いたします。</p>	<p>表：本町における地域公共交通のあゆみに、「2015年(平成27年)10月～南箱根ダイヤランド循環バスが、乗合バス(ダイヤランド線：南箱根ダイヤランド管理事務所から(株)東海バスへ委託)として運行を開始」、「2024年(令和6年)3月末ダイヤランド線(南箱根ダイヤランド管理事務所から(株)東海バスへ委託)が廃止される」を追記</p>
23	10	<p>(3) 公共交通機関の現状 ②路線バスの表中に、下記の事実を追記されたい。 【ダイヤランド線(函南駅～ダイヤランド内)】(2023年度(令和5年度末)で廃止) 「代替交通手段が決定するまで、バス事業者の路線退出を延期すること」を地域住民が函南町に要請していたにも関わらず、令和6年1月18日の令和5年度第2回地域公共交通会議において「ダイヤランド線」の退出が決定され、同年3月末をもって路線が廃止された。 なお、同会議において、バス事業者が行った「2024年4月1日以降は、三島市大場に営業所がある(株)伊豆バスが道路運送法21条による実証運行として継続する予定です。」との説明は誤りであり、現に(株)伊豆バスからは実証運行を拒否されている。」</p>	<p>ご指摘の内容について、公共交通機関の現状を示したものであり、「ダイヤランド線」については、現状の運行を踏まえ、「(4) その他の交通機関の現状 ②送迎バス」で、整理しています。 なお、ご指摘として挙がっているバス事業者の説明と内容については、退出が協議された際の状況として、会議で説明されたものと理解しております。</p>	<p>変更なし</p>

件 (No.)	意見の 対象部分 (ページ)	意見内容	町の考え方	意見に対する措置
24	10	<p>(3) 公共交通機関の現状 ②路線バス 【熱海駅-伊豆箱根鉄道大場駅前線】の文末に、下記の利用実態に係る記載を追加されたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同路線は、熱海行きが早朝2本、大場駅行きが夕方1本のみの運行のため、利用者が極めて少なく、「基幹公共交通軸」として機能していない。</li> <li>・2022年10月に新設された「畑」バス停は、既存集落から離れた場所のため、乗降客はごく僅かである。</li> </ul>	<p>ご指摘の「熱海駅-伊豆箱根鉄道大場駅前線」については、資料編 P24 に示す通り、当該路線の利用者の増加がみられます。</p> <p>「畑」バス停については、近隣の中山間地域等の要望により検討・新設されたバス停となっており、同地域唯一のバス停であるため、維持していきたいと考えております。</p>	変更なし
25	11	<p>(4) その他の交通機関の現状 ②送迎バス 【ダイヤモンドバス】の7行目から9行目を削除し、下記の事実を記載されたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎バスへの運行形態変更にあたり、自主運行の場合は道路運送法の規定により利用者から運賃を徴収できないため、マイクロバスによる運行に変更したほか、新たに週2日の運休日を設定、日5便だった本数も日4便に削減せざるを得なかった。そのため、利用したい日時のバス便が削減されたり、特定日時のバスに利用者が集中し乗車できないケースが起こるなど、地域住民の生活に重大な影響が出ている。</li> <li>・従来運行頻度を確保するため特定旅客運送事業の検討を行ったが、「種々の目的で利用されている当該シャトルバスは、単数の需要者との要件に該当せず」との見解が示されたため、地域住民から函南町に対し「函南町地域公共交通会議において自家用有償運送事業(交通空白地有償運)等の代替交通手段の検討すること」を要請しているものの、依然として同会議での検討は行われていない。</li> </ul>	<p>送迎バスの運行の現状（経路や頻度など）を示しているものです。</p>	変更なし
26	19	<p>3-3 現況まとめと課題 課題1 課題1の3つ目の・として、下記の記載を追加されたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活連携軸である「熱海駅-伊豆箱根鉄道大場駅前線」は、近年、観光地としての人気急激に伸びている熱海駅と函南町を結ぶ拠点間連携軸にも匹敵する重要な路線であり、便数増やバス停増設など、有効活用に向けた具体的な検討が必要となっています。</li> </ul>	<p>路線バスの維持のための課題が増大しているため、既存路線の維持に努めてまいります。</p>	変更なし

件 (No.)	意見の 対象部分 (ページ)	意見内容	町の考え方	意見に対する措置
27	21	<p>②地域公共交通計画の全体方針と目指す姿</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「公共が支える基幹公共交通軸と地域が支える支線公共交通軸のネットワーク形成を目指す」という地域公共交通の基本理念に基づき、「誰もが利用できる 利用したくなる持続可能な公共交通網の確保・維持」の説明文3行目「また、本町は町域が広く、住宅地・集落地が分散していることから、」の後を、「基幹公共交通軸と有機的に結節した、デマンド型交通や自主運行バス、自家用有償旅客運送事業など地域に最適な支線公共交通軸の構築・推進を図ることにより、それぞれの公共交通が連携して持続可能な本町の公共交通網（ネットワーク）を形成します。」と修正されたい。</li> <li>・基幹公共交通軸と支線公共交通軸のネットワーク形成による交通空白地域の解消を目指していることから、3つ目の○について、「中山間集落地と都心中心拠点(函南町役場周辺)・都市賑わい交流拠点(東駿河湾環状沿道地区地区計画区域周辺)・基幹公共交通軸とデマンド型交通や自主運行バス、自家用有償旅客運送事業などで結び、交通空白地域の解消を目指します。」と修正されたい。</li> </ul>	<p>ご指摘の基本理念の説明文については、短い文章で表現しています。また、より具体的に補足する内容を下段に箇条書きにより表現しています。</p> <p>自家用有償旅客輸送については、バスやタクシー事業者のサービス提供が困難な地域における自家用車を用いて行う有償の輸送サービスであることから、交通空白地域解消にあたっては、「など」に含めて、考えております。</p>	変更なし
28	24	<p>将来公共交通網構想図 基幹公共交通軸である「熱海駅－伊豆箱根鉄道大場駅前線」と〔地域主体〕支線公共交通軸である「丹那区自主運行タクシー」や「ダイヤランドバス」は路線として競合していることから、新たな交通結節点の検討を含めたネットワーク構造に改めるべき</p>	<p>交通結節点については、鉄道駅、中心市街地、公共施設等、拠点性を有する施設へ交通結節点機能（乗換機能）を付加・充実を目指しております。【施策Ⅰ－１－② バス・鉄道の連絡強化（乗換環境の改善・整備）】</p>	変更なし
29	25	<p>(2)、Ⅰ、2 既存の交通機関の有効活用 2つ目の○として、下記の記載を追加されたい。 ○既存基幹交通と既存支線交通の有機ネットワークを形成するため、新たな交通結節点の検討を行う。</p>	<p>交通結節点については、鉄道駅、中心市街地、公共施設等、拠点性を有する施設へ交通結節点機能（乗換機能）を付加・充実を目指しております。【施策Ⅰ－１－② バス・鉄道の連絡強化（乗換環境の改善・整備）】</p>	変更なし
30	改定について P1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Ⅰ R6.3の大場函南線の退出により代替交通として・・・ 評価「○」⇒「×」又は「△」</li> <li>・Ⅳ 地区要請を受けて勉強会や説明会を実施（上沢区2回・・・）評価「○」⇒「×」</li> </ul> <p>いずれも路線バス「大場～函南線」廃止に伴う対応である。 代替交通としての「デマンドタクシー」は利用者数；1/17(2,000人⇒120人)に激減、乗車率；1.3人/台(タクシー2台は乗客1人、1台は2人)乗合タクシーの形態をなしていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上沢区の2回は2/21と9/12と推定される。2回とも、住民からは理解でされず、再度の説明を約束したはず。しかし、その後説明はされていないばかりか、その評価が「○」とあるのは、この資料の品位を陥れるものである。</li> </ul>	<p>「函南町地域公共交通計画の改定について」は、計画案改定の経緯等を示した資料であり、パブリック・コメントの対象ではありません。</p>	変更なし

件 (No.)	意見の 対象部分 (ページ)	意見内容	町の考え方	意見に対する措置
31	11	<p>(4) その他の交通機関の現状 ②送迎バス 町内における公共交通機関・現状の一部として「送迎バス」が紹介されている。当然、ここで紹介されている以上だれでも自由に利用できるはずと理解する。 ※バス運行事業者との契約内容はどうなっているか？ ※事業内容（通院、入浴、ゴルフ、自動車の教習）と異なる利用の実績はどうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・函南中学校 スクールバス . . . . . R5.11 から「登録」された丹那小学校区の高校生の利用が可能 . . . 無料</li> <li>・伊豆函南病院、伊豆平和病院を発着地としたＪＲ函南駅、大場駅を経由する送迎バス . . . . . 無料</li> <li>・ＮＴＴ東日本伊豆病院とＪＲ函南駅、大場駅間の送迎バス 無料</li> <li>・「湯～トピアかなみ」送迎バス R6.4 より、施設利用者以外の利用が可能</li> <li>・「函南ゴルフ倶楽部 送迎バス」 JR 函南駅とゴルフ場を結ぶ路線 無料</li> <li>・田方自動車学校 送迎バス 本町をはじめ、裾野市、伊豆市湯ヶ島、熱海、沼津市まで広い範囲で運行</li> <li>・ダイヤモンドバスバス 別荘分譲地契約者に限定した送迎バス 別荘分譲地契約社限定 乗車不可</li> <li>・エメラルドタウンバス エメラルドタウンの共益費を負担する会員限定 乗車不可</li> </ul> <p>★通院客を対象に運行しているバスに、通常の買い物客が乗車するとは思えない。ダイヤモンドバスやエメラルドタウンバス等は乗客が限定されている。何よりも、これらのバスが運行されるに当たり町当局はどのような役割を果たしたのか。バス運行当事者にしてみれば、「勝手に紹介するな」といいたいのではないだろうか。ましてや、「田方自動車学校 送迎バス」が本資料に記載されること自身疑問である。前項同様、資料の『信憑性』ひいては『品位』を落としかねない事象であるため、早急な見直し・訂正を要請する。</p>	<p>公共交通サービスの維持・確保が厳しさを増している中、国土交通省では、地方公共団体が、公共交通事業者等と連携して、最新技術等も活用しつつ、既存の公共交通サービスの改善・充実を徹底するとともに、地域の輸送資源を総動員する取組を推進する必要があるとしています。</p> <p>当該箇所は、本町の輸送資源を整理したものであり、これらの有効活用・相互利用の可能性と活用方法について、関係機関と連携を図り検討してまいります。【施策Ⅰ－２－① 送迎バス・スクールバス等の有効活用・相互利用】</p>	変更なし
32	2	<p>表中に、下記の事実を追記されたい。 2024年（令和6年）3月末 代替交通手段が検討中にも関わらず、令和6年1月18日の令和5年度第2回地域公共交通会議において「ダイヤモンド線」の退出が決定され、同年3月末をもって路線が廃止された。</p>	No.22 と同じ	—

件 (No.)	意見の 対象部分 (ページ)	意見内容	町の考え方	意見に対する措置
33	10	<p>(3) 公共交通機関の現状 ②路線バスの表中に、下記の事実を追記されたい。</p> <p>【ダイヤランド線(函南駅～ダイヤランド内)】(2023年度(令和5年度末)で廃止)</p> <p>「代替交通手段が決定するまで、バス事業者の路線退出を延期すること」を地域住民が函南町に要請していたにも関わらず、令和6年1月18日の令和5年度第2回地域公共交通会議において「ダイヤランド線」の退出が決定され、同年3月末をもって路線が廃止された。</p> <p>なお、同会議において、バス事業者が行った「2024年4月1日以降は、三島市大場に営業所がある(株)伊豆バスが道路運送法21条による実証運行として継続する予定です。」との説明は誤りであり、現に(株)伊豆バスからは実証運行を拒否されている。」</p>	No.23と同じ	—
34	10	<p>(3) 公共交通機関の現状 ②路線バス</p> <p>【熱海駅-伊豆箱根鉄道大場駅前線】の文末に、下記の利用実態に係る記載を追加されたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同路線は、熱海行きが早朝2本、大場駅行きが夕方1本のみでの運行のため、利用者が極めて少なく、「基幹公共交通軸」として機能していない。</li> <li>・2022年10月に新設された「畑」バス停は、既存集落から離れた場所のため、乗降客はごく僅かである。</li> </ul>	No.24と同じ	—
35	11	<p>(4) その他の交通機関の現状 ②送迎バス</p> <p>【ダイヤランドバス】の7行目から9行目を削除し、下記の事実を記載されたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・送迎バスへの運行形態変更にあたり、自主運行の場合は道路運送法の規定により利用者から運賃を徴収できないため、マイクロバスによる運行に変更したほか、新たに週2日の運休日を設け、日5便だった本数も日4便に削減せざるを得なかった。そのため、利用したい日時のバス便が削減されたり、特定日時のバスに利用者が集中し乗車できないケースが起こるなど、地域住民の生活に重大な影響が出ている。</li> <li>・従来運行頻度を確保するため特定旅客運送事業の検討を行ったが、「種々の目的で利用されている当該シャトルバスは、単数の需要者との要件に該当せず」との見解が示されたため、地域住民から函南町に対し「函南町地域公共交通会議において自家用有償運送事業(交通空白地有償運)等の代替交通手段の検討すること」を要請しているものの、依然として同会議での検討は行われていない。</li> </ul>	No.25と同じ	—

件 (No.)	意見の 対象部分 (ページ)	意見内容	町の考え方	意見に対する措置
36	19	3-3 現況まとめと課題 課題1の3つ目の・として、下記の記載を追加されたい。 ・生活連携軸である「熱海駅-伊豆箱根鉄道大場駅前線」は、近年、観光地としての人気が急激に伸びている熱海駅と函南町を結ぶ拠点間連携軸にも匹敵する重要な路線であり、便数増やバス停増設など、有効活用に向けた具体的な検討が必要となっています。	No.26 と同じ	—
37	21	②地域公共交通計画の全体方針と目指す姿 ・「公共が支える基幹公共交通軸と地域が支える支線公共交通軸のネットワーク形成を目指す」という地域公共交通の基本理念に基づき、「誰もが利用できる 利用したくなる持続可能な公共交通網の確保・維持」の説明文3行目「また、本町は町域が広く、住宅地・集落地が分散していることから、」の後を、「基幹公共交通軸と有機的に結節した、デマンド型交通や自主運行バス、自家用有償旅客運送事業など地域に最適な支線公共交通軸の構築・推進を図ることにより、それぞれの公共交通が連携して持続可能な本町の公共交通網（ネットワーク）を形成します。」と修文されたい。 ・基幹公共交通軸と支線公共交通軸のネットワーク形成による交通空白地域の解消を目指していることから、3つ目の○について、「中山間集落地と都心中心拠点(函南町役場周辺)・都市賑わい交流拠点(東駿河湾環状沿道地区地区計画区域周辺)・基幹公共交通軸とデマンド型交通や自主運行バス、自家用有償旅客運送事業などで結び、交通空白地域の解消を目指します。」と修文されたい。	No.27 と同じ	—
38	24	将来公共交通網構想図 基幹公共交通軸である「熱海駅-伊豆箱根鉄道大場駅前線」と[地域主体]支線公共交通軸である「丹那区自主運行タクシー」や「ダイヤランドバス」は路線として競合していることから、新たな交通結節点の検討を含めたネットワーク構造に改めるべき	No.28 と同じ	—
39	25	(2)、I、2 既存の交通機関の有効活用 2つ目の○として、下記の記載を追加されたい。 ○既存基幹交通と既存支線交通の有機的ネットワークを形成するため、新たな交通結節点の検討を行う。	No.29 と同じ	—

件 (No.)	意見の 対象部分 (ページ)	意見内容	町の考え方	意見に対する措置
40	全体	<p>当地、南箱根ダイヤランド、では暮らしの応援隊の活動として免許返納された方の函南町市街地の病院やスーパー等への移動支援を進めている。現在お乗りになる利用会員（約30名）と草刈り、ゴミ出し、また自家用車を運転し利用会員をお乗せする協力会員（16名）で運営している。</p> <p>ボランティアの活動に関して函南町の社協さんからの指導や、協力会員への運転ボランティア養成講座での運転指導等で町からいろいろと御世話いただいているが、今後継続し、より発展させていくためには以下の種々の問題があるので町にも一段と前向きに支援頂きたい。</p> <p>問題1. 町の運転ボランティア養成講座は基本的に年に一回しか行われないので、運転ボランティア養成講座を年に一度ではなく、数回実施願いたい。また、函南町で開催される講座だけでなく、近隣の市町、伊豆の国市、熱海市、三島市等で同様の講座があるときに、それらの講座に参加出来るように町として便宜を図って頂きたくまたそれらの近隣の講座に参加すれば、町として認めてもらえるようにして頂きたい。</p> <p>問題2. 現状の利用会員、協力会員の数でも、その調整、つまり利用会員の要望にどの協力会員が対応するかのスケジュール調整が負担となっている。この調整を円滑に進めるには町や、第三者の側面援助が必要となる。この方策に関して議論を進めたく町として協力頂きたい。</p> <p>問題3. 事故発生した場合の保険に関しては、現状複数の保険会社から、自家用有償旅客運送に対応する保険が発表されているが、高額であり、現状は各協力会員の自家用車に付帯する自動車保険でカバーすることになっている。幸いなことに、この二年間のダイヤランドの移動支援活動での交通事故は発生して居らず、問題とはなっていないが、今後上記朝日町の事例を参考に函南町としても保険に関してなんらかの側面援助願いたい。</p>	<p>公共交通サービスの維持・確保が厳しさを増している中、ご意見にある取組のほか、本町における高齢福祉自動車「パサディナ号」の事例があるように、地域主体での運転ボランティアの活用を目指しております。【施策IV-1-② 交通空白地域への対応】</p> <p>ご意見につきましては、運転ボランティアの育成や活用に向けたご提案として、参考とさせていただきます。</p>	変更なし

件 (No.)	意見の 対象部分 (ページ)	意見内容	町の考え方	意見に対する措置
41	全体	<p>1. 出張診療所、または移動診療車の活用。</p> <p>現状のダイヤランドからの市街地への病院への移動支援が多く行われているが、その目的は定期的な診療、注射、投薬が多く、無医地区であるダイヤランドに出張診療所、または移動診療車を活用する診療が行われれば、市街地までの遠距離移動支援を行わなくて済み、時間の節約、事故率の低下を図りより安全に移動支援できる。ぜひ無医地区への診療所開設、診療車配備を検討願いたい。特に移動診療車は多忙な医師は同乗せず、移動診療車に看護師だけが乗車すれば、医師は遠隔で、ネット経由診療が出来るので、医師も楽になり、また患者もダイヤランドの特定場所に行くだけですむので非常に楽になる。町として、移動診療車の配備に関する予算を前向きに検討頂きたい。</p>	<p>出張診療所、または移動診療車の活用については、本計画（案）に対する意見ではございませんので、回答を控えさせていただきます。</p>	変更なし
42		<p>2. 交通空白地域の移動支援に関して、自動運転車の活用も多く検討されている。ネット経由の位置情報をもとにする最新の自動運転車はまだ歴史が浅く高額であり、またダイヤランドのような坂道に弱いという欠点を持っている。これに対して、50年以上前から特にゴルフ場で使われている坂道の舗装の下に敷設される誘導線を埋め込みそれに追従し坂道を力強く走行できる自動運転ゴルフカートの利用が考えられる。全世界のゴルフ場で多くの実績があり、ダイヤランドや丹那盆地周回路で十分に検討に値する。数年前にダイヤランドで実施した GSM グリーンスローモビリティと同じく環境に優しい EV 車で実現可能であり、完全に運転者が乗車しなくても、丹那盆地周回路、またはダイヤランドメイン道路と熱函道路のバス停、出張診療所間をこれらの古い実績のある技術（誘導線路方式）を使った自動運転車でカバー可能であるので、町として前向きに検討頂きたい。</p>	<p>中山間地域等の交通空白地域の移動支援に関するご提案として、参考とさせていただきます。</p>	変更なし
43	10	<p>1. 10ページ (3)公共交通機関の現状 ②路線バス</p> <p>【熱海駅-伊豆箱根鉄道大場駅前線】の文末（5行目以降）に、利用実態に係る下記内容のご追記をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本路線は熱海駅行きが早朝2本、大場駅行きが夕方1本のみの運行と利用時間が限定されているため、利用者が極めて少なく、また、首都圏近郊観光地として観光客（インバウンド需要も含む）が急増している熱海と函南・三島を結ぶ「基幹公共交通軸」として機能していない。</li> <li>・2022年10月に新設された「畑」バス停は、観光拠点であるオラッチェや既存集落から離れた場所にあるため、乗降客はごく僅かにとどまっています（令和6年第2回函南町公共交通会議資料参照）。</li> </ul>	No.24 と同じ	-

件 (No.)	意見の 対象部分 (ページ)	意見内容	町の考え方	意見に対する措置
44	19	19ページ 3-3現況まとめと課題 課題1 課題1の3つ目の「・」として、下記内容のご追記をお願いいたします。 ・生活連携軸である「熱海駅-伊豆箱根鉄道大場駅前線」は、近年、首都圏近郊の観光地として見直され観光客が急増している熱海と函南・三島を結ぶ拠点間連携軸にも匹敵する重要な路線であり、有効活用に向けた具体的な検討（便数増やバス停の増設など）が必要です。	No.26 と同じ	—
45	24	3. 24ページ 将来公共交通網構想図 基幹公共交通軸の「熱海駅-伊豆箱根鉄道大場駅前線」と生活連携軸【地域主体】（支線公共交通軸）の「丹那区自主運行タクシー」・「ダイヤランドバス」は路線として競合（熱海道路：新山 IC～函南町中心市街地）しているため、新たな交通結節点の設置検討を含めたネットワーク構造を再考する必要があると考えます。	No.28 と同じ	—
46	25	4. 25ページ （2）地域公共交通計画の基本的な方針、 I 既存のニーズと交通機関を活かした基幹交通の再編、2 既存の交通機関の有効活用 2つ目の「○」として、下記内容の追記をお願いします。 ○既存の基幹交通（熱海-伊豆箱根鉄道大場駅前線）と既存の支線交通（丹那区自主運行タクシー及びダイヤランドバス）の有機的活用を目指すため、既存の基幹交通の便数増と新たな交通結節点の検討を行う必要があります。	路線バスの維持のための課題が増大しているため、既存路線の維持に努めてまいります。 また、交通結節点については、鉄道駅、中心市街地、公共施設等、拠点性を有する施設へ交通結節点機能（乗換機能）を付加・充実を目指しております。【施策 I-1-② バス・鉄道の連絡強化（乗換環境の改善・整備）】	変更なし
47	26	（2）、IV 地域の特性に応じた交通モードによる支線交通の形成 38ページ、「IV-1-② 交通空白地域への対応」の項で具体的な事業内容として、「自家用有償旅客運送の導入」を記載していることから、3行目の説明文に「自家用有償旅客運送」を加え、「このことから各地域の特性や住民のニーズに応じて、デマンド型交通、自主運行バス、自家用有償旅客運送の推進などを含んだ交通空白地域の解消と公共交通の活性化を目指します。」への変更をお願いします。	自家用有償旅客輸送については、バスやタクシー事業者のサービス提供が困難な地域における自家用車を用いて行う有償の輸送サービスであることから、交通空白地域解消にあたっては、「など」に含めて、考えております。	変更なし

他課に関する意見につきましては、担当課へ情報提供します。